

城南総合研究所 調査報告書No.22

今注目される新たな復興支援の形！

～被災地で作ったクリーンな電気を首都圏へ～

最近では、東日本大震災の被災地で作ったクリーンエネルギーを、特定規模電気事業者（PPS）を通じて、首都圏の企業が購入し、消費するという新たな形での復興支援が注目を集めています。

そこで今回の報告書では、岩手県宮古市で木質バイオマス発電に取組み、発電した電気を東京駅前の「新丸ビル」に供給している「ウッティかわいいバイオマス発電所」についてご紹介します。

<木質バイオマス発電の特長>

木質バイオマス（樹木の伐採や造材の際に発生した林地残材や製材工場から発生する樹皮や屑等）燃料で発電する木質バイオマス発電は、太陽光発電や風力発電に比べて安定的です。太陽光発電や風力発電は、日照や風の有無によって発電量が左右されますが、木質バイオマス発電は燃料を確保すれば、故障や点検時等を除き、安定的に発電することができる特長があります。

また、木質バイオマス発電は、他の電源に比べて、地域への経済波及効果も期待できます。例えば、火力発電で石油を燃料に使う場合、燃料費は産油国に支払われますが、木質バイオマス発電の場合は、燃料費は山村地域に支払われるため、その地域の経済活性化につながります。

<ウッティかわいいバイオマス発電所の取組み紹介>

「ウッティかわいいバイオマス発電所」は、岩手県宮古市で住宅関連部材（構造用集成材）の製造販売を営む「株式会社ウッティかわいい」が運営する木質バイオマス発電所であり、間伐材や林地残材などのいわゆる「未利用材」や、自社の製造過程で出る製材端材を燃料としながら発電事業に取り組んでいます。



同発電所は、未利用材の有効利用、運搬・保管、チップ加工等による林業再生、雇用創出等の波及効果が期待され、木質バイオマス発電設備としては岩手県内で初めてFITの設備認定を受けている他、政府の震災復興支援事業にも認定されています。



<ボイラー棟内での説明>



<蒸気タービンの回転エネルギーで電気を発生>



<蒸気を利用してタービンを駆動>

<東京駅前の「新丸ビル」に岩手県宮古産の電力を供給>

「ウッティかわいバイオマス発電所」で発電された電力のほとんどは、特定規模電気事業者（PPS）岩手ウッドパワーや電力情報業のエナリスを通じて、東京駅前の「新丸ビル」（三菱地所が所有）に供給され、同ビルで使用する電力の一部を賄っています。

また、最近では、今回のケースのように、被災地で作られた再生可能エネルギーを首都圏の企業が、特定規模電気事業者（PPS）を通じて購入し、消費する新たな形の復興支援が注目されています。

